

技術者の心構え（国土建設週間表彰式の雑感）

（株）アリサワ技術 代表取締役 有澤良一（技術士：建設部門）

平成7年7月某日、N国際ホテルの表彰式会場に時間ギリギリに到着した。ホテルのロビーに入るやいなや、AコンサルタントのR.A君がソファに腰をかけていたのが目に付いた。

「R.A君、何でここにいるの?」「Aさんこそどうしてここにいるの?」と挨拶を交わした後、彼の横にA2版ほどの大きさで紫色の風呂敷に包んだ額縁入りの賞状が目にとまった。すると、彼は自慢そうに賞状の真ん中にある菊の紋章を指して「この紋章があるのとないのでは大違い」と言った。（局長表彰は真ん中に紋章があり、事務所長表彰は無かったと思う?）

ここで彼の略歴を紹介しよう。大阪府のO大経済学部を卒業し、平成元年頃から河川・砂防関係のコンサル業務を手掛け平成7年に河川・砂防部門で技術士を取得したやり手である。

また、Aコンサルは調査、測量業務が主体で設計業務を行う要員は5、6人しかいない地方の中規模企業である。彼は、J川床固工群(3.0Km)の基本設計業務において優秀技術者としてH地建の局長表彰を受けたのである。

文系から技術系に転換し、短期間の間に技術士試験に合格した彼の努力と仕事に対する熱意は大変なものであったようだ。

大学の教授に積極的に相談して親密になったり、財団法人の技術者と熱心に議論を交わしながら、業務を通じて人脈を創ると共に猛烈に勉強をしたようだ。

「最近のKコンサルさんはあまり評判が良くないね！技術的な努力が少し足りないのではないの?」「そんなことはないよ！現に沢山仕事をもらっているし、色々と技術的な相談も受けているし……」と言うような会話を交わしながら荘厳な表彰式会場に入った。

工事表彰から始まって業務委託表彰を受けている間、表彰式前の短時間に交わした会話のやりとりに対して、色々なことが気になり複雑な思いでボンヤリしていた。

自分が所属している会社には、彼のように真剣に業務に取り組み、技術の向上のために、対外的にも積極的に見聞を広めようと努力している人が何人いるだろうか？

小さなコンサルで、しかも短期間になぜ彼のような優秀な技術者が誕生したのだろうか？ 本人の資質だけなのか？あるいは会社全体の社風なのか？等々……

自分が所属している会社は、受注業務の内容や仕事をこなす能力は、少なくともAコンサルより優れており、技術力アップを図るには当社の方が条件に、数段、恵まれているのではないか？ 等々……

「なのにどうして?」という疑問にぶつかり頭が痛くなって考えるのをやめた。

技術士法第1条には、技術士法の目的が「科学技術の向上と国民経済の発展に資することを目的とする」とうたわれており、さらに、第2条には「技術士とは、科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、試験、

評価又はこれらに関する指導の業務を行う者をいう」とある。

コンサルタント業務は、「技術の向上」があって初めて技術者として成長出来るものと信じている。しかし、技術者一人一人の物事の捉え方やスキルアップに対する認識の相違によって、短期間の間に技術者個々に大きなスキルの差が生じるのではないかと思われる。

近年、「技術力の向上、安全、安心、信頼」等「技術、安全、安心、信頼」と言う技術者倫理の根幹をなす言葉を安易に使いすぎて、言葉の上滑りになっているのではないか？と思われてならない。

このように、技術士法や技術士倫理要綱には、技術者としての基本理念が誠に立派な文々でうたわれている。我々技術者はこの基本理念を忘れずに、日々地道な努力を積み重ねていくのが、技術士法第1条にうたっている「科学技術の向上と国民経済の発展に資すること」に繋がっていくのかなあと思い新たにした。

…… 以 上 ……

平成7年 8月 有澤良一



(平成21年一部修正)